

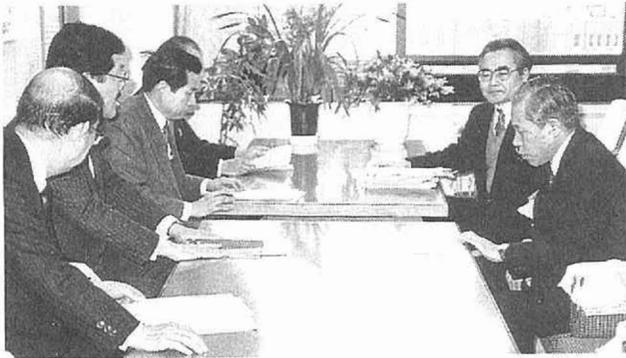
日本患者・家族団体協議会

3月  
1989

# SSKO

# の 仲間No.17

〒161 東京都新宿区下落合3-15-29  
全腎協内  
☎03(952)5347/FAX03(953)1750  
購読料1部300円(年間1,500円送料込)



## 患者本位の福祉予算を!

89年度予算で  
JPC代表が 復活要請行動

一月二十日、JPCは患者・家族本位の社会保障・福祉予算の拡充を求めて、一九八九年度予算案の復活要請行動を行いました。  
この日は大荒れの天候でしたが、北海道難病連、ス全協、全肝

協、全交災、心臓病、全腎協、パキンソン、日患同盟の代表ら八団体四十四人がかけつけ、伊藤たてお代表幹事を先頭に厚生省、大蔵省の各大臣、関係局長、担当課を訪ね要請書を手渡しました。

この日要請したのは①社会保障予算の大幅増額②難病の原因究明、治療法確立のための研究費大幅増額③難病の医療費公費負担の対象疾患拡大④患者団体などの連係による難病患者医療相談会開催⑤国立医療機関の充実⑥生活保護基準の大幅引き上げ⑦障害年金給付制限廃止と制度の拡充、年金額の引き上げ⑧国保制度をはじめとする社会保障制度の国庫負担率の引き上げ⑨健康保険本人の十割給付復活、国民生活を圧迫している国保・健保の保険料の引き下げ、給付率の引き上げ⑩身体障害者手帳を持たない難病患者の所得税控

除額引き上げ、の十項目でした。

大臣室を訪ねたJPC代表に厚生大臣に代わって応対した大臣付けの野山氏は「皆さんの要望は大臣もよく理解している。できるかぎりがんばりたい」と答えました。

この日、午前中は厚生省一階の共用会議室で保健医療局疾病対策課の金森課長や同課感染症対策室の中村補佐の説明を受けました。これまでの要請行動ではJPCの代表らが関係各課を訪ねて歩くという形をとっていましたが、会議室の借用が許可され担当者が向いて説明するというのは今回がはじめて。

「患者が広い省内を長時間歩くのは無理。一カ所で要請を行いたい」という要望が一定? 受け入れられたことはこれまでの運動の成果だと言えます。

今後「消費税」の導入、医療・福祉の「引き締め」「適正化」など、患者・家族には厳しい状態が予想されますが、このようななかでJPCの活躍が期待されています。

(関連記事三画)



JPC相談役、元代表幹事の  
前田こう一氏（全腎協相談役、元会長、  
京都難病団体連絡協議会会長）が一月二十二日午前十時二十分、心不全のため死去されました。昭和四十六年一月に透析導入、五十七年十一月からCAPD療法を行い、最近体調をくずし入院中でした。六十一歳。

前田氏はJPCの前身である「ゆたかな医療と福祉をめざす全国患者・家族団体連絡会」の頃から世話人を務められ、昭和六十一年にJPCが結成されてから二年間代表幹事として活躍、六十三年からは相談役でした。入退院を繰り返しながらも難病患者の結集をめざして先頭に立ち、「いのちとくらし」を守る運動を進めてこられました。氏の著書に「難病の海に虹の橋を」があります。生前のご活躍に感謝し心からご冥福をお祈りします。（編集部）

### JPC代表幹事 長 宏

前田こう一さんと私は、「ゆたかな医療と福祉をめざす患者・家族集会」の準備以来、「JPC」の結成にいたるまで、いかなれば日本の患者運動の「新しい前進」のなかで一緒に仕事を続けてきた間柄でした。このような仕事のなかで、いつも

前田さんから私が学んだのは、患者運動に打ちこんでいる前田さんののびのびとした熱情でした。

気迫に溢れた演説。杖をつき透析

のです。

JPC代表幹事 伊藤 たてお  
ついに前田こう一さんが亡くなられた。

原爆被爆以来から教えること実に四十数年。あらゆる病氣と闘って闘って、闘い抜いたあげくの死であった。何度も死の淵から引き返しての、まさに不死鳥のような前田さんの死であった。壮絶な、そしてまだ回復への意欲を持ち続けたままでの死であった。『ついに』と慨嘆せざるを得ない死であった。

## 前田こう一 相談役を偲ぶ

液を携帯しながらも会議に出席していた前田さんを知らない仲間には少ないでしょう。

前田さんの理論と実践の根底にある思想は、患者運動の永遠の誓でもある、人間の尊厳と基本的人権の擁護でした。

もっと長生きして運動を指導してはしかなかった。しかしもうそんな感傷的な発言はやめよう。それより、前田さんの遺志を発展させ、「JPCを強化しよう」という誓いこそが、いま前田さんを追悼する言葉として一番ふさわしいのでは、と私は思う

時代は今、ますます厳しい。

前田こう一さんの死を心から悼む。

京都難病連前副会長 加納正雄  
腎不全・透析、そしてさまざまな合併症による苦しみさえ、患者運動への情熱にされてきた前田さん。幾度も危機をのりこえて来られたあなたも、今度ばかりは。残念です。

あなたの生き方は多くの患者を励ましてきました。しかし、あなたに何度か申しあげてきましたように、全面的には賛成はしませんでした。

あなたが仆れられた今、初代会長勝山さんはじめ、岸田、麻田、川島、上野、室田さんなど、京腎協の方々の在りし日の姿が昨日のことのように浮かんできます。

あなたとは京腎協結成以来の付き合いでした。あなたとは、意見は半分は合って、半分は合わない、というような間柄だったように思い出されて、今も苦笑しています。

運動も生命との兼ね合いをもっと考えてはしかなかった、と思つています。『生きていくだけでは』と同時に、『生きていくことが』ということも大切では。

ご家族の悲しみをお察しします。これからは安らかにお眠り下さい。

## 89年度厚生省関係予算の概要

政府予算案の一般会計のうち、一八%を占める社会保障費の九九・五%は、厚生省関係の予算となつていきます。

この厚生省予算案は対前年度比で八年ぶりに五%増の十兆八千三百七十一億九千四百万円となりました。

この予算案の特長は、①消費税三%の影響を計上していること②年金「改正」分を見込んでいること③国庫補助率を三年間引き下げていたものを生活保護、結核、精神病などは五%引き上げ、他はそのままにして恒常化④国民健康保険の補助率は三八・五%に据置きにしていることなどです。

難病関係予算はどうでしょうか。

◇難病対策費は、六百十一億三千三百万円（四十七億五千三百万円増）となります。その内訳は①調査研究費二十六億四千七百円②治療研究費は、四百三十七億四千九百万円③その対象疾患を三十疾患から三十一疾患に④国立療養所の難病病床などの整備費二十億四千三百万円⑤国立精神・神経センター経費百二十六億八千九百万円。新規事業として「難

病患者医療相談モデル事業費」五百万円、新年度七県に補助が行われます。

◇腎不全対策費は、二億四千七百万円（一億二千九百万円増）。新規に腎不全医療研究費として九千万円が認められています。

◇糖尿病調査研究費が新規に認められ、その予算は一億五千万円。

◇肝炎対策では、肝炎対策推進協議会費を含め六百五十五万円。

◇年金関係では①老齢基礎年金、二級障害基礎年金及び遺族基礎年金は、六十六万六千円（月額五万五千五百円）、②一級障害基礎年金は八十三万二千五百円（月額六万九千三百七十五円）となります。しかし年金法が改善され、老齢年金の支給開始年齢を現行の六十歳を段階的に先送りし六十五歳からの支給にしようとしています。また障害年金の支給停止三年での失権問題は、改正しようとはしていません。

◇生活保護基準は、標準三人世帯（男三十三歳、女二十九歳、子供四歳）で月額十三万六千四百四十四円（一級地一）となりますが、消費税三%が含まれています。

厚生省予算案は全体として社会保障の引き締めとなっていますが、運動の成果も反映されています。

## 医療・福祉のうごき

1月  
▽1日 昭和六十三年に生まれた赤ちゃんは百三十一万二千人で統計をとりはじめた明治三十二年以来最低となったことが厚生省の人口動態統計で明らかになった。

▽3日 厚生省は厚生年金の支給開始年齢を、段階的に六十五歳に遅らすことを厚生年金保険法改正案に明記する方針を固めた。

▽7日 厚生省は八九年度から厚生年金、基礎年金の支給回数を実行の年四回から六回に移行する方針を固めた。

▽11日 厚生省は消費税の導入に伴って四月一日から診療報酬を平均一%程度引き上げる方針を決めた。

1・2月  
▽12日 大蔵・厚生両省

### 非A非B型肝炎

肝炎には、口を通して感染するA型や、輸血で感染するB型などが知られていますが、A型ともB型とも異なる謎の肝炎を非A非B型と称しています。輸血を受ける

は、新年度予算で生活扶助基準額を三%以上引き上げる方針を固め、四月から適用する。

▽22日 輸血感染による肝炎の九割を占める非A非B型肝炎のウイルスを、国立予防衛生研究所が分離・精製に成功。将来、ワクチン開発や診断・治療法の確立に道を開く。

▽25日 八九年度予算の社会保障費は約十兆九千億円で、前年度比四・九%の伸び。高齢化に伴う年金や医療費の自然増が大きい。

2月  
▽5日 厚生省は年金制度改革の一環として十月から厚生年金保険料をアップ。

▽6日 総務庁が保健所を対象に実施した監察結果をまとめ、保健所の業務・運営面を中心にした合理化を勧告する。

▽9日 厚生省は厚生年金支給開始年齢の六十五歳移行に伴い、希望者には六十歳支給を残す方針。

人の約一五%が感染し、このうち四〇%が発症して慢性化します。一部は肝機能障害から肝硬変、肝ガンにまで悪化します。世界中で一千万人以上の患者がいますが、感染予防法がなく、ウイルスの発見が大きな課題でした。

# JPCの活動

## さらに事業を大きく！

### 第2回家庭雑貨販売担当者研修会

JPCは一月二十一・二十二日の二日間にわたって、千葉県安房郡天津小湊の旅館魚庵で「第二回家庭雑貨販売担当者研修会」を行いました。今年で二回目となったこの研修会には十四団体から二十一人が、また日本家庭雑貨頒布協会加盟の業者六社から七人が参加しました。去年と比べると「これから事業を取り組みたい」という団体（県）の参加が増えたことが今回の特長です。



小林事務局長のあいさつのおと、伊藤代表幹事が司会をし、なごやかな雰囲気でした。

一昨年の九月に五地域（県）で始めた「チャリティー物品販売事業」も取り組みが広がって、現在八地域（県）で行われています。売り上げも一九八八年度は十二月までの十カ月間で七千六百七万円と大幅に増やし、各団体への還元額も十一月末までで三百三十一万円になりました。

しかし売り上げが伸びている反面で苦情やトラブルの処理には相変わらず頭を痛めていることや、業者との連係がなかなかうまくいかないなどの苦労話が各団体から多数出されました。

またこれから事業に取り組もうとしていいる団体からは、「事業の内容がよく分からない」とか「仕事が増えるのではないか」という不安も出されました。

これらの意見を受けて伊藤代表幹事は、「この事業は私たちの活動を支える財政を強化するという点でもたいへん重要な取り組みですが、それ以上に私たちの存在と、私たちの活動を多くの人に理解してもらうことが重要

4

とが重要です。私たちの活動に対して理解や信頼が得られれば、それだけ事業の取り組みもまた広がります。このことを私たち自身がしっかりと理解していきましょう」とこの事業の意義を訴えました。

二日目は、北海道難病連で雑貨販売を担当している菅原道子さんから北海道難病連のシステムや日常的な苦情・問い合わせの対応などについての細かな説明がありました。

「苦情がきたらとにかくすぐに謝る、が秘訣です」と菅原さんからのアドバイス。

最後に難病患者の実態を理解するために、難病患者の在宅ケアについてのビデオを全員で観ました。

これからもこの事業を大きく発展させていくことを全員で確認し、有意義だった二日間の研修会を終了しました。

## 参加者の感想

全腎協 海和博司

一月二十一・二十二日の両日にわたって千葉県安房小湊で開催されたJPC第二回家庭雑貨販売担当者研修会に山形県腎友会として初めて参

加して有意義な研修を受けさせていただきました。

恒久的とも言える財政難に悩む本会としましては、資金獲得の方策をいろいろ検討している最中ですが、そのひとつとして雑貨販売への参入も考慮している次第です。研修会では各団体の状況報告や問題提起などが活発に行われ、個人的な感想としましては会として取り組むだけの価値は大いにあるという印象を受けました。また、事務局長の小林氏から会運営に関して貴重なアドバイスをしていただいたこと、北海道難病連の活発な活動には羨望と尊敬を通りこして、ある種の畏敬の念さえ覚えたことなど、『発展途上県』の山形にとつては本当に意義ある研修会となりました。

岐阜県難病連 伊藤 博

JPC家庭雑貨販売担当者研修会に参加し今後の取り組みにあたりたいへん参考になりました。それについて若干のべさせていただきます。

【良い点について】一、それほど労力を使わずに収益ががり実施団体の大きな財源ができること。二、自治会、町内会などに商品力タログと共に患者団体の機関紙等が回覧されるので難病患者に対する理解が深

まること。三、商品代金は自治会、町内会で集金、納入してもらえらる。四、商品の納入、返品、交換などについては業者で一切やってもらえること。

【問題点について】一、難病連として積極的に取り組むには専任職員が一名必要であること。二、自治会、町内会で取り組んでくれるかが疑問であること。三、収益があることにより補助金交付に影響が出るのではないかと思われること。

### 日家領 石田亮一

私は当社に入社して日も浅いのですが、今回の研修会でJPC本部の皆様や全国各地域から参加されました団体役員の皆様とお会いでき、たいへん有意義でした。難病を理解していただくための、北海道難病連の皆様が活躍されているビデオの紹介や各地域団体におけるチャリティー事業の活動状況等が発表され、地域団体の現状とこの事業に課せられた趣旨を再認識した次第です。

本研修会を通じて私は様々な問題を解決し、一方的な満足感はい互いに避けることが大切ではなからうか、今後は今まで以上に地域団体での患者会運動を拡大しPRに専念し、チャリティー事業に本腰を入れること

が急務だと思いました。一方、業者自身も難病に対する理解をさらに一層深め、社員の資質向上を図ることが肝要だと思いました。

地域団体と業者は一つのチームとしてそれぞれの立場を理解し力をあわせ、共に喜びあえる様に努力していくことが必要だと感じました。

### 長野県難病連 北沢和夫

「資金がないから活動できない」「もっと県から補助金を増やしてもらわない」という意見が毎年出されました。今年度の総会では活動資金づくりを具体的に考えようということになり、群馬難病連の黒崎さんのお話をお聞きしてたいへん勉強になりました。しかし、事務局の仕事が増えるのでは、トラブルがあるのでは、などの不安もありました。

今回の研修会に参加して、北海道難病連のきめ細かい取り組みにたいへん感銘しました。長野でも事業活動に取り組むなかで、財政を豊かにすると同時に難病問題を地域の人々に知ってもらい、難病相談に対応できる体制を一層充実させたいと思います。十一月に長野県で開催するJPCの全国交流会を成功させるためにも、長野県難病連の活動を質量ともに飛躍させたいと思います。

## 第5回常任幹事会

### 開かれる

JPCは二月二十二・二十三日、家庭雑貨販売研修会の後、同じ会場で第五回常任幹事会を開きました。

最初に一月二十日に行つた八九年度予算案請行動の報告と総括が行われました。この総括を受けた協議では今後の要請行動のあり方について、①早い時期での予算案請行動の重視②中央に本部を持たない団体も参加できる日程調整③各難病連とJPCが協力して地域と中央の統一要求づくりを進める、ことなどの意見が出されました。

このほか、「脳死・臓器移植」問題に対するJPCの「統一見解」の必要性についても協議されました。

二日目は、会議開始前に前田相談役の悲報を受け、伊藤代表幹事を通夜と告別式に代表派遣することを決めました。このため常任幹事会は急きよ予定を繰り上げて、二日目に予定されていた第四回総会議案骨子論議は三月十日の第六回の常任幹事会であらためて協議し、このあとに続く第二回幹事会に提案していくことなど、今後の日程を確認して終了しました。

## 県単事業

◆療養見舞金 【対象】特定疾患患者年額五千元。城陽市、長岡京市、向日市、八幡市、大山崎町では三千元、六千二百円を自治体で単費支給。

◆小児慢性特定疾患の年齢延長

【府】血友病のうち一部は四十歳。慢性血液疾患は三十歳。先天性代謝、内分泌疾患の一部を除く小児慢性特定疾患は二十歳。【市】慢性血液疾患（血友病など特定のもの）その他の小児慢性特定疾患、（天頭てんかんは入院のみ）は二十歳。

◆通院交通費 【対象】透析治療のため月額七千円を超えるた交通費の1/2。

◆福祉タクシー 【対象】身障一〜二級、療育手帳A。

京都市、宇治市、亀岡市、長岡京市、向日市、大山崎町で実施。

◆腎移植組織適合検査料 【対象】透析患者の移植希望者、二万五千元。

◆心臓病術前精密検査料 【対象】術前精密検査を必要とする者の自己負担分の助成。【所得制限】あり。

◆重度心身障害児（者）医療給付事業

【支給内容】医療保険の自己負担分の助成。【対象】身障手帳一、二級。

◆その他 浴室等設備の助成。

## 京都府



# 結核の「語り部」

## 「生き証人」として

日本患者同盟 加賀爪昭三

### 天国から地獄の診断

昭和二十三年三月、立命館専門学校卒業の私は、新制中学の教師になるべく身体検査を受けた京都府立中央市民病院で両肺の重症結核と診断された。天国から地獄への入院だった。当時はストレプトマイシンは幻の新薬で、来る日も来る日も絶対安静を続け、気胸療法を試みたが助膜の癒着のため成功しなかった。病院代がかさむばかりで、六カ月の治療も成果が上

がらず、家庭療養に切り換えた。退院時に松永院長が両親に「今年の梅雨はもっても土用は保証できません。赤いものが口一杯出たら終わりです」と宣告した。当時は日本の結核死亡者が年間数十万人におよび、死因のトップだった。

### 一進一退の療養生活

四面楚歌の農村での療養生活の

生き甲斐に、ひたすら吉井勇選の毎日新聞歌壇に投稿を続けた。

家庭療養は、一進一退の病状で風邪や、喀血したりしては町医者に往診を頼み、幾十本のストレプトマイシンも打った。

涙もて雷船小僧

絵を画くか病骨われは

歌文字を書く

大戦で長兄、次兄が相次いで戦死。三男の私が学徒勤労動員の過労で肺結核に倒れ、家業の百姓は古い父母と弟妹が細々と営んでいた。妹が嫁ぎ、弟が結婚適齢期を迎え、私は追われるように村外れの一軒屋に移り住んだ。体調の良いときは、軽い畑仕事もできたが喀血すると寝たきりになり、実家から父母が代る代るに食事を運んでくれた。

弟が嫁もらいたる

かの夜をぞ血を吐く床に

すすり泣き居き

## 病氣なんかに負けないぞ!

一軒屋での一人住いは、三年ほど続いたが、昭和三十六年秋の第二室戸台風で家屋が半壊したので、私は京都療養所（現国立療養所南京都病院）に入院を決意した。

出迎への病院車にて

村を発つわが古い父母に

こころ残して

いろいろな抗結核剤を試みたが依然、菌は開放しだった。世話好きの私は基仲間の同好会の会長や、書道会の創立会長として院内を走りまわった。ある日、磯部院長の診察があり、「気の毒な人やけどこのままでは骨箱に入らんと退院できないよ。手術する気はないか」といわれた。両肺の手術の決意

つかぬままあてなきバスに

ひとり揺らるる

平和の願いを歌集に

こんな矢先の昭和四十六年、試供薬として出回り始めたリファビシンとの出会いがあった。

リファビシン飲みし月より

部厚なるわれのカルテに

好転の文字

主治医よりリファビシンの優等生と折り紙をつけられ、私は晴れて人前に出られるようになった。低肺に喘ぎながら国立南京都病院の患者自治会の先頭に立ち、十余年になる。結核と低肺対策の充実、アメリカに強制される軍拡より国立医療機関の存続と福祉の向上を

求める患者運動に献身している。低肺の請願カンパ

集め来て

掌に置く小銭の重み

昭和六十一年に戦争の犠牲としての長臥のベッドから平和と反戦の願いをこめて慟哭の「学徒勤労動員の日記」を刊行した。また、昭和六十三年、二冊の歌集「家庭療養」と「低肺」に四十年の病歴と歌歴の集大成、約二千首を収録して出版した。

今後も結核の「語り部」「生き証人」として、今の実に軽視されている結核と低肺の啓蒙作品を書き続ける意欲と執念に燃えている。結核に生残りたる低肺を

どうしてくれる

知事よ政府よ

(京都府患者同盟所属)

## 血のかよう相談を

ス金協(東京) 石井久子

私がスモン患者の会事務局長の任を受けて三年目に入りました。

四十三年にスモン病に罹患して早いもので二十一年がたち、その間、公私ともに一生を凝縮しようなきまざまの出来事がありました。それを書くにはとても紙面が足りませんし、病気をした当人しかわからない部分でもあると思います。

その当時例がない薬害といわれ、患者はスモン病の身体症状を訴え、毎年治療法の確立を叫び続けて何十年もの歳月が流れました。しかしスモンに効く特効薬はなく、医療面でも患者は置き去りにされ、入院施設での無理解な言動に精神的にも限界の状況にあるのです。

事務局にかかってくる電話はこの種の悲痛な訴えが増えています。そ



の中で私も理解されにくいスモン病のつらさを抱えている者の一人として、ともに語り合い、慰め合い、患者さんに対して少しでも心の傷がやわらぐように心がけています。

ある地区の福祉関係者が「あの患者は愚痴が多くて近よりたくない」と話していましたが、その患者の訴えは「SOSであると思うのです。難病が治らなければそのつらさを受けとめてあげる温かさが肝要ではないかと思えます。

事務局長として何年たっても一押し足りない半端な自分をいつも反省していますが、弱者に冷たい国の福祉対策に憤懣やるかたない気持ちをくじけることなく、今年も多くの仲間と手をとり合って、弱い者が幸せだと感じられる世の中になるようがんばりたいと思っています。

### 心痛む子供への透析

三重県難病連 宮地 稔

松の緑の門松が解けぬ間に、天皇の崩御とともに昭和から平成へと、年の始めに大きな歴史の交代が告げられ、さらに消費税の導入とめまぐるしい移り変りにとまどいを感じています。

さて私ども三重県難病連は次のような支部により構成され運営されて

います。まず世帯の一番多い腎友会九百人、腎炎ネフローゼの子を守る会百五十人、リウマチ友の会三百人、三重スモンの会三十人。

実のところ三重難病連として、あまり活発な活動がなされておらず、会報発行と県への陳情が主です。

私が病院で一番心を痛めるのは、何といっても小、中学生等、低学年年齢層の透析者です。遊び盛りの子供に一日おきの痛い針と、四、五時間のベッドへの釘付けはあまりにも残酷です。また結婚適齢期の若い男女の将来を見るにつけ考え込んでしまいます。

一年三百六十五日、その半数の百八十日を透析によってついでるため人の半分しかない人生を、私は自分なりに一日一日を大事に、そして充実した人生と、毎日ありがたく思いもう百パーセント治ることのない腎臓とともに生涯同居して、体をいたわり最大限の延命を願い、病気にうち勝ち生きる喜びを味わい頑張る覚悟です。

### 総力上げて準備中

富崎難病連 谷口 紘一

十年を経ました富崎県難病連ですが、結成以来、医師や看護婦、ケーヌワーカーの方々の協力を得て検診

や相談会を開くことを念願し、県へ陳情をくり返してきました。その甲斐あって、「公費による無料検診・相談の実施」が六十三年度新規事業として三十万の予算がつきました。

昨年五月、この事業の企画・運営を行うための実行委員会を設立し、十月から毎月役員会を開いて検討してきました。何しろ初めてのことであり、暗中模索の状態でした。

幸い先進県であります秋田難病連の「療育相談会」の資料を取り寄せることができました。それを参考にさせてもらい、県の保健予防課とも相談しながら、ようやく期日、場所、内容が決まりました。

しかしまだ、年金、身障手帳に関する担当者、ケーヌワーカー、受付からの手順などこれから打ち合わせしなくてはならないことも多くPRの期間もあまりないので、果してどのくらいの方々が相談に来られるだろうかと不安がいっぱいのこの頃です。やっと獲得できた新規事業ですからぜひとも成功させたいのです。難病に苦しむ患者や家族のみならず、この検診や相談で少しでも悩みや苦しみを解消させるように手助けできることを願って、三月十二日の開催にむかって役員一同がんばっているところです。

# 伝言板

## JPCのこれから予定

■三月十日（金）、十一日（土）  
第六回常任幹事会

東京・北海道第二事務所

■四月十四日（金）  
国会請願行動

四月十五日（土）、十六日（日）  
第二回幹事会

東京・北海道第二事務所

■六月四日（日）  
第四回総会

東京・北海道第二事務所

（前夜第七回常任幹事会と地域  
難病連交流会を同会場で）

■十月二十二日（日）  
全国いっせい街頭署名行動

■十月二十八日（土）、二十九日（日）  
第三回幹事会

■十月十八日（土）、十九日（日）  
全国交流集会

長野県諏訪湖畔

※ただしこれらの予定は第二回幹事会などでの調整で変更する場合がありますので、詳しくは  
おつてお知らせいたします。

## 協力会員ご入会のお願

第三回総会から目標三千人で取り組んできた「JPC協力会員制度」ですが、現在約三百二十口、二百九十五人の方からご入金していただいています。まだお申し込みいただけていない方、まだご入金いただけていない方、お早めにお申し込み、ご入金をお願い申し上げます。

最初なかなかエンジンがかからず心配されていた協力会員の取り組みでしたが、大阪難病連、北海道難病連をはじめ、多くのみなさんのご協力でなんとかここまでやってきました。悲願の目標達成まであと一歩（？）。

昨年の全国交流集会で見事海外研修を射止めた大阪の藤木さんに続けを合言葉に今後ともJPCの協力会員拡大にご協力ください。

## 交流集会資料集を販売

全国交流集会の資料集（一部七百円）と「患者・家族会の作り方と進め方」（川島書店千五百円二冊限り）を販売しています。ご希望の方は、JPC事務局まで。

# 団体通信

▼鹿児島県難病連が「難病患者家族懇親会」を開催

鹿児島県難病連が一月、「難病患者家族合同懇親会」を行い、約八十人が参加しました。

長期にわたる苦しい療養を必要とする難病患者とその家族にとつて、闘病生活における「心の問題」は重要な問題です。難病患者の精神衛生について考え、長期療養の心がまえについて話し合おうというのがこの懇親会の目的。三月田精神科神経科クリニック院長を招き、「闘病生活における精神保健」についての講演と懇談を行いました。

▼全協が三省に申し入れ  
スモンの会全国連絡協議会は一月九日、厚生、運輸、建設省の三省に申し入れを行いました。

この申し入れでは、厚生省にはスモン被害者の恒久対策確立を、運輸省には身障者運賃割引制度の対象範囲拡大を、建設省には身障者の有料道路割引制度を家族などの介護者が運転する場合にも適用することなどをそれぞれ要請しました。

▼岐阜県難病連が陳情  
岐阜県難病連が昨年の十二月二十一日、岐阜県に対して陳情を行いました。

三団体十七人が参加しました。

岐阜県難病連では、年々増加する相談業務に対応していくために、常勤の相談員を配置できるよう助成金の増額を要請しました。また参加した各団体からもそれぞれ要請文などを提出し、難病対策の充実を要請しました。

▼北海道難病センター新年会  
一月十四日、北海道難病連は難病センターの利用者などを対象に「難病センター新年会」を行い、当日は加盟団体関係者や道の関係課長など六十人が参加。食べ物・飲み物持参の楽しい新年会となりました。

▼日患同盟アレル普及進む  
日患同盟が創立四十周年記念事業として取り組んでいる「ネパールへの結核医療協力募金・テレホンカード」の普及は現在七千枚を突破、なお取り組みが続けていますが、三月にはネパールに募金を届ける予定ですので、ご希望の方は早目にお申し込みを。



圧倒的国民の反対の声を無視して、リクルート疑惑の解明もせずに消費税の導入を強行。四月から私たちの生活いつたいたどうなるの？不安です。（美知子）

発行所

身体障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧6-26-21

頒価三百円

一九七六年二月二十五日第三種郵便物認可  
SSKO通巻一九七五号（毎週月・水・金曜日発行）  
一九八九年三月六日発行

## 目 次

○ 患者本位の福祉予算を！ .....	145
○ 前田こう一相談役を偲ぶ .....	146
○ 89年度厚生省関係予算の概要 .....	147
○ JPCの活動 .....	148
○ 病気なんかに負けないぞ！ .....	150
○ たよりの交差点 .....	151
○ 伝言板 団体通信 .....	152